

NICU看護師を対象とした早産児・ハイリスク新生児への相対的医行為を含む現任教育プログラムの開発と評価

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小西, 美樹 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30644

主論文の要旨

NICU 看護師を対象とした早産児・ハイリスク新生児への相対的医行為を含む
現任教育プログラムの開発と評価

東京女子医科大学大学院
社会医学系専攻医学教育学分野
(指導:高桑雄一教授)
小西 美樹

Advances in Neonatal Care 誌に投稿予定

【要旨】

本研究の目的は、医学教育に用いられる成人学習理論を応用し、早産児・ハイリスク新生児への相対的医行為を含む教育プログラムを開発し、教育効果を評価することである。介入群 16 名に 5 日間の能動的教育プログラムを実施し、筆記テスト、実技テスト、医師との協働意識、職務満足度を調査し、対照群 12 名と研修前後で比較した。介入群は 3 か月後と 6 か月後まで追跡調査し、研修 1 年半後に臨床実践の変化を問う面接調査を行なった。

介入群の筆記テストの平均点及び足底採血の実技テストの合格率は、研修前に対して直後、3 か月後で有意に上昇した。手背からの静脈採血及び末梢静脈路確保の実技テストの合格率は研修前に対して直後で有意に上昇した。「看護師の仕事の価値のおき方と満足度」の下位尺度「仕事上の人間関係」では研修前に対して直後で有意に下降した。「看護師としての自己実現」では研修前に対して 6 か月後に有意に上昇した。面接調査では、臨床実践で感じる自身の能力の変化として「患者への貢献」「医師との連携・関係改善」「医療チームへの貢献」「自己への気づき」が語られた。

本教育プログラムは NICU 看護師の学識と技術の習得に一定の効果があったが、習得技術の実践導入は容易でなく、成人学習の特徴として学習結果が活用されないと負の教育効果を及ぼすことが示唆された。